

静岡をもっと楽しみたい女性たちへ



asterisk ten

10

特集

アステレン

2010 **12**月号
vol.62

大人が見つけた サンタクロース

asten people
栗原はるみ



今月の*キラリ

ベルトといえば、無難なところで黒か茶色？

「レザーアイランド」のベルトは、独自の加工で革に錆びた感じの色づけをしてヴィンテージ感を表現している。

“何かすごく特別な古い宝箱から見つかった形見のようなもの”というイメージで、一本ずつすべて手作り。

無難な人生を送りたいと思っても、そもそもあり得ないし、面白くないでしょ、というロックな感じ。とはいえ、洋服を選ばずコーディネートしやすいのが魅力。アメリカをはじめ世界の有名スターが顧客だという。かがんだときにカットソーの下から見え隠れするのも、悔しがらせる使い方。

撮影協力/ルナティコ tel:054-345-6224

その気持ちが
サンタクロース

「宗教上でいえば、サンタクロースは神様とは別の存在。だからキリスト教国でない国にも受け入れられます」。日本・フィンランドサンタクロース協会の宮田仁美さんはそう話す。北欧フィンランドのサンタクロース中央郵便局には毎年、宗教を問わず世界150もの国からサンタクロースへの手紙が届くという。中でも特に多いのが日本の

子どもたちからの手紙。「日本の子どもたちの手紙には、サンタクロースへの願い事よりも、『サンタさんありがとう』とか『体に気をつけてね』といった心配りが綴られることが多いんです。日本人らしい情緒を子どもたちも受け継いでいるんですね」。覚えてたの字やカラフルな絵が紙いっぱいに並ぶ手紙は、大人も微笑まずにいられない豊かなイマジネーションの結晶だ。

日本・フィンランドサンタクロース協会は、そんな日本の子どもたちとサン



タクロースを手紙で結ぶお手伝いがしたいと、10年ほど前から活動している。サンタクロースとの往復書簡ができるのは世界でもここだけ。サンタクロースからの手紙に返事を書いた子どもたちには、夏になるとサンタクロースから再び国際郵便で返信の「サマーカード」が届く。

「サンタクロースに寄せられる一通一通の手紙の陰で、必ず子どもの周りの大人たちが手助けしているんですよね。子どもたちの夢を大事に守って、一緒に手紙を書いてあげる、そんな大人たちの気持ちこそが、サンタクロースなんだと思うんですよ」

昨年からは「手紙を書いてサンタを街に呼ぼう」という新しい試みが始まった。手紙がいちばん多かった県にはフィンランドのサンタ村から憧れのサンタクロースがやってくるとあって、熊本や宮城などでは子どもの夢をかけた大人たちが熱心に参加を呼びかけているという。

ほっこり心温まる今年流のクリスマス

お出かけグルメ

トップ快談

NTTドコモ

zoom&zoom

もっと知りたい、子宮頸がんのこと

すくすくボード

TOM SAWYER!

蕎麦打ち

小さな旅

清水区袖師エリア

しずおかキッチン

黄金色の幸せチキン

こだわりSELECTION

ブックハント

毎月第一土曜日発行

静岡新聞 広告特集



アステレン meets ぐるぐる

とろ〜り
チーズ料理